がんばろう
末崎！
津波なんかに
負けない！

館報まっさき

第３２０号
令和３年８月２０日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（F 兼）29-2955

敬老会は中止

末崎地域公民館長会議が7月21日、ふるさとセンターで開催されました。本年度は、新型コロナウイルス感染症が再拡大していることから、文化祭の会場設営や運営に携わる人々、出演者やご来場の皆様の感染リスクを回避するため、本年度の末崎町民文化祭を中止することとしました。

開催するか否かについては地域公民館長会議においてもお伺いいたしましたが、開催は難しい、中止はやむを得ないというものでした。その後、極めて感染力の強い新型コロナウイルスの感染が拡大している現状から、感染症の専門家はかなり厳しい対策を講じないと一層拡大する恐れがあると警告しており、文化祭実行委員である各部門の代表者の皆様には、「現状では開催は難しいので中止とさせていただきます。ご理解願います」とお願いの文書を差し上げました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、末崎町敬老会は中止としたが、県内に感染者が増加傾向にあり、当町に収束とどころか、当町にもお年寄りの感染リスクを考え、中止とすることを判断しました。次第でご長寿の皆様に記念品としてバスタオル（図柄が替わります）、ご長寿名簿、菓子折の3点を贈ることにしました。9月19日（日）にお渡しいたします。ご長寿の皆様には、ご理解とご協力の程お願い申し上げます。

町民文化祭中止

末崎地区公民館は、新型コロナウイルス感染症が再拡大していることから、文化祭の会場設営や運営に携わる人々、出演者やご来場の皆様の感染リスクを回避するため、本年度の末崎町民文化祭を中止することとしました。

上げた次第です。町民の皆様には、本年度は開催できるかもしれないとあらかじめ出展に向けて作品制作に取り組んでいる皆様や出演を予定し日々稽古に打ち込んでいる皆様、さらに鑑賞すべく足を運ぼうと考えておられた皆様には、大変申し訳ありませんがご理解の程お願い申し上げます。

★津波到達碑 見たことありますか

何度となく津波の恐ろしさを経験した末崎の先人は、地内に津波到達碑を建て避難意識の高揚に努めてきた。

津波到達碑は、津波はどこまで襲来したのかを示す標柱である。少なくともその襲来地より高台に避難しなければならないとする避難目標地を考える標柱でもある。まさに、津波到達碑（標柱）は命を守る目印なのである。それ故、誰もが関心を持ち、脳裏に焼け付けておいてほしい碑（標柱）なのである。

1 末崎公益会は、一人の犠牲者も出さないよう願いを込めて、平成29年に東日本大震災による津波到達碑（標柱）をつぎの13箇所に建てた。

①（船河原）藤澤勝美宅敷地内（石浜14）
②（峰岸）近藤真宅敷地内（内田116－1）
③（内田）梅澤茂宅敷地内（内田7－2）
④（細浦）渡部敏次宅敷地内（細浦88－2）
⑤（神坂）近藤賢悦宅敷地内（神坂1－22）
⑥（中野）近藤正彦氏所有地内（小細浦48）
⑦（平）新沼伸也宅敷地内（小細浦19）
⑧（梅神）八幡神社境内地（高清水）
⑨（小河原）大友芳也宅敷地内（鶴巻79－5）
⑩（門之浜）小松進宅敷地内（鶴巻10－1）
⑪（山根）山中富雄氏所有地内（山根33－2）
⑫（三十刈）村上勝宅（中森61－3）
⑬（碁石）大和田耕蔵宅敷地内（大浜93－1）

2 明治・昭和三陸津波到達碑

このほど明治29年、昭和8年の三陸地震津波到達碑について、調査した。（紙面の関係から被害が甚大であった明治29年の津波到達碑のみ掲載）

明治29年の現存する碑は、次のとおりである。

＜船河原＞松岡義明氏宅（船河原3－1）入口。
＜峰岸＞岩脇弘之宅（峰岸134－1）の庭。熊谷昌之進宅（石浜23）の前。
＜中野＞村上美江宅（中野120）の細浦側の角。
＜小細浦＞菅原公也宅（山岸53）の道路向い。〔補強復元済み〕
＜梅神＞細川和洋宅（高清水137）の石垣の角の下。（側溝に建っている）
＜小河原＞大友利一宅（鶴巻73）脇の道路沿。
＜門之浜＞元山田利七宅（門之浜146－1）入口。〔補強復元済み〕
＜三十刈＞三十刈の熊上眞宅（中森61－2）の入口。
＜碁石＞「民宿海さんぽ」前の道路を奥へ、大和田徳宅（大浜75）の入口。〔復元済み〕

人は自身の経験値で物事を判断する傾向が強い。東日本大震災の津波も、多くの人はチリ地震津波を想定して避難したと聞く。しかし、それよりはるかに大きな津波が押し寄せた。それでも、ある程度の高台まで避難しているので、さらに高台へ避難することは容易で命を失わずに済んだという。

少なくとも、このたび末崎町公益会が建立した津波到達碑を超え、より高台を目指して避難してほしいのである。

津波に際しては「てんでんこ」という言葉がある。自分の身は自分で守る（行動をとる）ということだ。生きていさいすれば家族のため社会のために尽くせる。それだけに命を大切にしてほしいのである。

★新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に係る地区公民館施設の貸出停止について

新型コロナウイルス感染症の新規感染が、県内において急速に拡大しており、改めて感染対策の徹底と感染拡大を防ぐための一定の行動制限が必要であることから、8月16日（月）から当面の間施設貸出停止と致します。

※当面の間とは、「岩手県の直近1週間の新規感染者数（対人口10万人）10人未満となるまで」です。

末崎町の石碑・祠・神社

48　えびす様について　～　その3

(2)　えびす信仰には蛭子命（ひるこのみこと）説と事代主神（ことしろぬしのかみ）説の二つが主なものである。

②　事代主神説（ことしろぬしのかみ）

事代主神は託宣の神といわれ、記紀神話（古事記・日本書紀）の国譲りの項で、大国主神の使者が事代主に天津神からの国譲りの要請を受諾するかを尋ねるために訪れたとき、事代主が釣りをしていたとされることと、えびす様が海の神であることが結びつき、江戸時代になってから両者を同一視する説が出てきた。

七福神の絵図でえびす様が、釣り竿と鯛を抱えた姿で描かれるのは、この事代主神の伝承に基づくものといわれる。

また、事代主の父である大国主命が大黒天と習合したことにより、えびすと大黒は親子ともされ、セットで祀られることもある。

事代主を祀る神社で有名なのは、大阪市浪速区恵美須西の今宮戎神社であるが、総本宮は、島根県松江市の美保神社である。（紀）

(3)　末崎町の分布状況

①　峯岸　松嶋神社　境内　石像
②　梅神海岸（線路側）　石像
③　門之浜　新山神社　末崎村誌―事代主神、棟札―西宮神社
④　小中井　鎌田征喜氏旧宅地　石碑
⑤　小中井　鎌田清氏宅前　石祠
⑥　小中井　中井公民館海側崖の中段（大黒様と対）　石像
⑦　西舘　舘の鼻　石像と西宮大神宮石碑　管理者　熊上真氏
⑧　碁石　恵比寿浜駐車場付近　石祠　管理者　古座孝也氏
⑨　碁石　恵比寿浜　木造祠の中に木像、管理者　佐々木賢治氏

恵比寿浜の名前の由来となっているえびす様　⑨